

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

飯塚市立庄内中学校

1 実践テーマ	【 II・III・V 】
2 実施対象者	飯塚市立庄内中学校 第一学年（男子：40名 女子：43名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育・総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ なし ） ③ その他（ なし ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ なし ） ② その他（ なし ）
4 目標 (ねらい)	「車いすテニスナショナルチームとの交流」を通して ○ 国際大会が地元飯塚市で開催されることへの誇りを持たせる。 ○ 「障がい者スポーツ」への興味・関心を持たせる。 ○ 車いすテニスを通して障がいのある方との「共生社会」について考えさせる。 ○ 2020年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」へ自ら関わろうとする生徒を育てる。
5 取組内容	【1】事前学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅰ』） 本校では、「国際教育」の一貫として、「国際車いすテニス大会」に関わらせていただいている。2年次では、試合の観戦（観る）・インタビュー活動を行い、3年次では、花壇作成のボランティア活動（支える）を行っている。そして今回の取組みでは、保健体育科・体育理論における「スポーツの多様な関わり方」を系統立て実際に体験させることができると考え、2年生・3年生の活動につなげるために、1年生において「車いすテニスのナショナルチームとの交流（する）」活動を行った。 まず、スポーツとの関わりについて興味を持たせるために、「リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック」選手団の人数とそのうちの選手の人数を提示しながら、選手団の約半分が選手以外であることを教えた。生徒達は、驚いた様子であった。そして、選手を含め、スポーツとの関わり方（選手、監督、チームスタッフ、観客、マスコミ、ボランティアの人々など）にはどのような関わり方があるのかを学ばせるために、さまざまなスポーツの大会の様子を写した写真35枚（図1）を各班に配った。配られた写真を班でグルーピングし、グルーピングした写真にタイトルをつける作業（図2）を行った。



図1 スポーツとの関わり方(選手, 監督, チームスタッフ, 観客, マスコミ, ボランティアの人々など)



図2 グルーピングの様子(左)とグルーピングしたものに生徒がつけたタイトル(右)

次に、オリンピック・パラリンピックにおけるスポーツとの関わり方(スポーツを「する(選手)」・スポーツを「みる(観戦)」・スポーツを「支える(大会運営・ボランティア)」)を参考に、「飯塚国際車いすテニス大会」と庄内中学校の関わり方についてパワーポイントを使って説明をした。庄内中学校では、2年生、3年生で「飯塚国際車いすテニス大会」において、「みる」「支える」という関わり方を知ることによって、国際的な大会への関わりが、身近なものだと捉えさせた。(図3)



図3 庄内中学校のこれまでの取り組み

観戦の様子(左上) ボランティアの様子(右上) プランター作成の様子(左下)(右下)

その後、「飯塚」で行われる大会について話している国枝選手の映像を見せ、庄内中学校の「みる」「支える」取組みが、大会や選手を支え・盛り上げる役割を果たしていることに気づかせた。

最後に、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会や飯塚国際車いすテニス大会における、スポーツとの関わりを振り返りながら、本時のまとめをした。そして、車いすテニスの日本代表選手と交流をすることを知らせた。さらに、スポーツとの関わりである『調べる』（図4）ことを付け加え、翌日の体験活動に意欲を持たせ、1時間目を終了した。



図4 生徒に配付した「かんたん!車いすテニスガイド」

【2】交流活動（総合的な学習の時間）

飯塚市にある「筑豊ハイツ」は、平成29年度より車いすテニス競技部門のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点として指定を受け、年間6回程度、日本ナショナルチームの強化合宿が行われている。日本ナショナルチームの地域貢献活動の一環として、講演、体験活動が実現した。筑豊ハイツは、2020年東京パラリンピックに向けた南アフリカ共和国車いすテニス競技の事前キャンプ地としても内定している。

<川野選手による講演>

『夢に向かって』をテーマに川野選手が話をしてくださった。（図5）バイクの事故で頸椎を損傷し、首から下に麻痺が残ったことや、家族や友達がリハビリの支えになったことを紹介し、「努力することで夢が必ず叶うとは言えないが、頑張った分だけ近づける。一歩踏み出して行動すれば、未来は切り開ける」と力強く語ってくださった。生徒達は、目の前にいる川野選手の話に聞き入っていた。生徒の感想から、「足が片方ない選手や、腕が片方ない選手がいて驚いた。」「頑張って前に進もうとしている姿を見たり話を聞いたりしてすごいと思った。選手のようにどんなに苦しいときがあっても力強く前に進んでいこうと思った。」「障がいがありながら、人一倍努力して世界で活躍してすごいと思った。」など、ハンデを背負っている方との交流が『障がい』について考えるきっかけとなった。

選手の講演後、4つのチームに分かれ、体験活動（図6）を行った。生徒達は、自分の思い通りにコントロールできない車いすに苦戦していた。さらに、ラケットを持つと混乱状態となり、2つのことを同時に行う選手のすごさを実感した様子だった。生徒の感想から、「車いすに乗りながらテニスをするのは難しかった。」「選手の方は簡単そうに操作しているように見えたが、実際に乗ってみると全然できなかった。」など、努力によってな

せる技術であると感じたようだった。

生徒は、体験活動中において、順番やルールを守ったり、互いのプレーに拍手をしたりする姿や、使った道具を自ら運ぶ姿が見られた。『ともに生きる』ことについて考えたように感じた。



図5 川野選手(左)と川野選手の話をしている生徒の様子(右)



図6 選手によるデモンストレーション(左)とそれを見る生徒の様子(右)



図6 選手の話をしている生徒の様子(左)と車いす体験の様子(右)



図6 道具を自ら片付ける生徒の様子(左)と集合写真(右)

【3】事後学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅱ』）
最後にまとめの授業を行った。はじめに、選手との交流の場面が、NHKのニュースで取り上げられたこと、車いすテニス協会のホームページにも交流活動の動画がアップされていること、西日本新聞（図7）にも記事が載っていることを知らせた。スポーツとの関わり方でもあったように、今回の活動がメディアを通して広めることができると教えた。

2020年の東京パラリンピックに向けた車いすテニスの強化指定選手で構成する車いすテニスJAPANナショナルチームと飯塚市の庄内中の1年生約80人による交流イベントが14日、チーが合宿する同市保の筑豊ハイツであった。

筑豊ハイツは「飯塚国際車いすテニス大会」のメイン会場、今年2月にはスポーツ庁のナショナルトレーニングセンター「競技別強化拠点施設」に指定された。これを受け、九州車いすテニス協会は選地の地域貢献を目的に交流イベントを初めて企画。川野将太選手、石戸大輔選手、齋田慎司選手(右)の指導を受け車いすテニスを体験する庄内中の生徒

車いすテニス選手 庄内中生徒と交流

川野選手「未来は切り開ける」

筑豊ハイツで講演や指導

庄内中の生徒を前に「夢に向かって」をテーマに話す川野将太選手

その後生徒はチームに分かれ、車いすの操作を選手たちに習ったり、ボールを打ったりした。選手たちは「車いすはほしめがついていないから気をつけて」「ボールを打てる」「なご声をかけながら交流した。1年の神原優さん(13)は車いすを押すのは難しかった。話を聞いて、部活のサッカーをきらめすに挑戦したいと思ったと話した。(田中早紀)

図7 交流会翌日に発行された西日本新聞の記事

そして、最後に2020年にオリンピックが東京で開催されることに触れ、大会に関わる関わり方についてまとめた。

まとめ

- スポーツを「する」→ 選手としてオリンピックに出場！
- スポーツを「みる」→ 会場で観戦！テレビで観る！
- スポーツを「支える」→ ボランティアとして参加する！

そして、今から2020年、東京オリンピック・パラリンピックにかかわることができる方法として、飯塚市にある「筑豊ハイツ」が車いすテニスのナショナルトレーニングセンター強化拠点として指定を受けたこと、年間6回程度、日本ナショナルチームの強化合宿が行われることを知らせた。また、筑豊ハイツが、2020年東京パラリンピックに向けた南アフリカ共和国車いすテニス競技の事前キャンプ地としても内定していることも伝えた。



<p>6 主な成果</p>	<p>【1】事前学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅰ』）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツへの多様な関わり方を学ぶことができた。 ○ 飯塚国際車いすテニス大会と庄内中学校の関わりから、国際大会へ参加していることを理解させることができた。 ○ 2年生・3年生への活動に意欲を持たせることができた。 ○ 選手との交流活動に意欲を持たせることができた。 ○ 「障がい者スポーツ」への興味・関心を持たせることができた。 <p>【2】交流活動（総合的な学習の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいのある選手と交流活動を行うことで、「共生社会」について考えさせることができた。 ○ 2つのことを同時に行う選手のすごさを知ることで、車いすテニスの魅力を感じさせることができた。 <p>【3】事後学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅱ』）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際大会が地元飯塚市で開催されることへの誇りを持たせることができた。 ○ 2020年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」へ自ら関わろうとする生徒の姿勢を育てることができた。
<p>7実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<p>【1】事前学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅰ』）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツを視覚的に捉えさせるために、写真を4つのグループに分けるグルーピングを行った。 ○ グルーピングしたものにタイトルをつけさせることで、見る視点を自分たちで考えさせた。 ○ 班単位（4～5人）で行わせることで、意見を出しやすく、まとめやすくした。 ○ 飯塚国際車いすテニス大会の取組みと関連させることで、2年生、3年生の取組みにつなげることができた。 ○ 「かんたん！車いすテニスガイド」で調べる取組みを入れたことで、車いすテニスへの理解が深まった状態で、交流活動に参加できた。 <p>【2】交流活動（総合的な学習の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ラケットの握り方をデジタル教科書を使いながら説明した。また、ボールの打ち返し練習を体育の授業で取り入れたことで、選手との交流に時間を使えた。 ○ 本物を目の前で見ることができ、車いすテニスの迫力を体感できた。 ○ 体験活動では、グループを分けることで、1人1人活動時間を増やすことができた。 ○ 道具（ホイッスル・マーカー・拡声器）を使うことで、スムーズな交流活動となった。 <p>【3】事後学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅱ』）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの交流活動が、メディアで取り上げられることそのものが情報発信であると学ばせることができた。 ○ 大会や、強化合宿などを通して2020年東京オリンピック・パラリンピックを身近なこととして捉えさせた。 ○ 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方を考えるきっかけとした。

8 主な課題等	<p>【1】事前学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅰ』）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし <p>【2】交流活動（総合的な学習の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年実施できるとは限らない。 ○ 学校にテニス用具が無かったため、物品借用でご迷惑をおかけした。 ○ 移動に費用がかかる。 <p>【3】事後学習（保健体育科：体育理論『スポーツへの多様な関わり方Ⅱ』）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし
9 来年度以降 の実施予定	<p>2年生 試合の観戦（観る）・インタビュー活動</p> <p>3年生 花壇作成のボランティア活動（支える）</p>